

1と3に統計的な有意差は示されなかったが、そのほかのタイプ間ではすべて統計的な有意差が示された。

表7 コミュニケーション項目の高齢者タイプ別の比較

		平均値の差	標準誤差	P
床上安静の指示	タイプ1 ⇔ タイプ2	-0.1	0.0	0.08
	タイプ1 ⇔ タイプ3	-0.2	0.1	0.00 **
	タイプ1 ⇔ タイプ4	-0.4	0.0	0.00 **
	タイプ2 ⇔ タイプ3	-0.1	0.1	0.66
	タイプ2 ⇔ タイプ4	-0.3	0.1	0.00 **
	タイプ3 ⇔ タイプ4	-0.2	0.1	0.00 **
他者への意思の伝達	タイプ1 ⇔ タイプ2	-0.3	0.1	0.00 **
	タイプ1 ⇔ タイプ3	-0.2	0.1	0.00 **
	タイプ1 ⇔ タイプ4	-1.6	0.1	0.00 **
	タイプ2 ⇔ タイプ3	0.1	0.1	1.00
	タイプ2 ⇔ タイプ4	-1.3	0.1	0.00 **
	タイプ3 ⇔ タイプ4	-1.4	0.1	0.00 **
診療・療養上の指示が通じる	タイプ1 ⇔ タイプ2	-0.2	0.0	0.00 **
	タイプ1 ⇔ タイプ3	0.0	0.0	1.00
	タイプ1 ⇔ タイプ4	-0.9	0.0	0.00 **
	タイプ2 ⇔ タイプ3	0.2	0.0	0.00 **
	タイプ2 ⇔ タイプ4	-0.6	0.0	0.00 **
	タイプ3 ⇔ タイプ4	-0.8	0.0	0.00 **
危険行動への対応	タイプ1 ⇔ タイプ2	-0.2	0.1	0.00 **
	タイプ1 ⇔ タイプ3	0.0	0.1	1.00
	タイプ1 ⇔ タイプ4	-0.4	0.1	0.00 **
	タイプ2 ⇔ タイプ3	0.2	0.1	0.02 *
	タイプ2 ⇔ タイプ4	-0.2	0.1	0.01 *
	タイプ3 ⇔ タイプ4	-0.4	0.1	0.00 **

## 第4章 介護重視型高齢者群に提供されていた介護業務内容および平均提供時間

### 1.介護業務内容の種類とその割合

高齢者に提供している介護業務は、高齢者の療養上の世話、診療の補助、職員自身の記録、連絡業務まで多岐にわたっている。これらの介護の種類は、現在 362 種類に分類されている。この種類が多いほど、多様な介護を必要としていると考えられる。

介護重視型高齢者に対して、平均 0 分以上提供している介護業務の種類は、306 種類である。このうち、「療養上の世話」に関する業務が 169 種類 (55.2%)、「与薬・治療・処置」が 61 種類 (20.3%)、「機能訓練」に関する行為が 50 種類 (16.6%)、「管理」に関する業務が 20 種類 (6.5%) であった。

これらの結果から、提供されている業務の約半数以上は、「療養上の世話」に関する業務であることが明らかになった。

### 2.発生率が高い介護業務内容

提供された介護業務で 1 割以上の高齢者に発生していた業務内容は、現在構成されている介護業務分類コードのケア分類 362 種類のうち、110 種類の介護内容が示された。

全ての介護重視型高齢者群に提供された介護業務を発生率<sup>注3)</sup>の順にみると、「日常会話、声かけ」が 98.9%と最も高く、次に、「脳・神経系の観察・測定」が 98.6%、「(夜間) 巡視、容態観察」が 87.6%、「ニード、訴えを知る」79.4%、「薬を患者に配布」71.6%、「寝具を整える」71.4%、「食事の準備」63.4%、「衣服を整える」61.1%、「ギャッチベッドの操作」60.9%、「採光・防音調整」60.2%、「おむつ除去、装着」57.2%、「点滴・I V Hの滴下の調整等」56.8%、「カーデクス、看護記録等」54.5%、「体位変換全介助」52.6%、「食事の後始末、配茶後の後始末」52.6%、「陰部洗浄、肛門部洗浄(坐浴)」50.1%という順になっていた。

発生率が 50%以上の介護業務内容の 90%以上は、大分類「療養上の世話」に関する介護業務内容であった。

---

<sup>注3)</sup> 本報告書で用いる「発生率」は、調査対象となった高齢者すべてが当該ケアを受けている場合を 100%とし、全高齢者の何人がサービスを受けたかを示す指標として用いた。従って、発生率は、次式にしたがって算出した。また、平均値とは、実施されたケアに費やされた時間を累計し、ケアを受けた高齢者数で割った数値である。

$$\text{発生率 (\%)} = \frac{\text{当該ケアを受けた高齢者数}}{\text{全数}} \times 100$$

表 4-1 介護業務内容（発生率降順）

TCC	介護内容分類コード(ケア分類)	平均値	標準偏差	最小値	最大値	N	発生率 (%)
TCC_141	日常会話、声かけ	49.1	43.4	0.3	273.7	432	98.9
TCC_136	脳・神経系の観察・測定	20.0	18.4	0.7	157.0	431	98.6
TCC_135	(夜間)巡視、容態観察	8.8	13.9	0.3	177.3	383	87.6
TCC_142	ニード、訴えを知る	20.9	25.6	0.3	192.3	347	79.4
TCC_202	薬を患者に配布	3.9	3.6	0.3	19.7	313	71.6
TCC_152	寝具を整える	6.4	6.5	0.3	47.3	312	71.4
TCC_080	食事の準備	4.3	3.9	0.3	22.0	277	63.4
TCC_053	衣服を整える	4.6	5.3	0.3	42.0	267	61.1
TCC_106	ギャッチベッドの操作	5.5	5.8	0.3	40.0	266	60.9
TCC_162	採光・防音調整	2.5	2.9	0.3	21.0	263	60.2
TCC_076	おむつ除去、装着	10.2	10.7	0.3	63.0	250	57.2
TCC_211	点滴・IVHの滴下の調整等	13.2	11.8	0.3	71.3	248	56.8
TCC_413	カーデクス、看護記録等	14.8	33.6	0.3	359.7	238	54.5

### 3.介護業務提供時間の分布

高齢者一人当たりの総介護業務時間の分布は、121分～240分の高齢者が多かったが、右にすその長い分布を形成しており、差が大きいことを示した。

最も提供時間が短かった患者は0分で、逆に長かった患者は、約35.8時間の介護を提供されていた。

今回、調査を実施したすべての高齢者の平均介護提供時間は、約281.9分（24時間中約4.7時間）だったが、この平均提供時間より短かった高齢者割合は、56.3%で半数以上を占めていた。

提供時間は、121分以上～240分未満が123名（28.1%）、241分以上～360分未満が103名（23.6%）、0分～120分未満が86名（19.7%）と続いていた。以上のように、提供時間は、高齢者によって大きな差があった。

表 4-2 平均介護提供時間

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	N
総介護業務提供時間(分)	281.9	194.5	0	2149.3	437

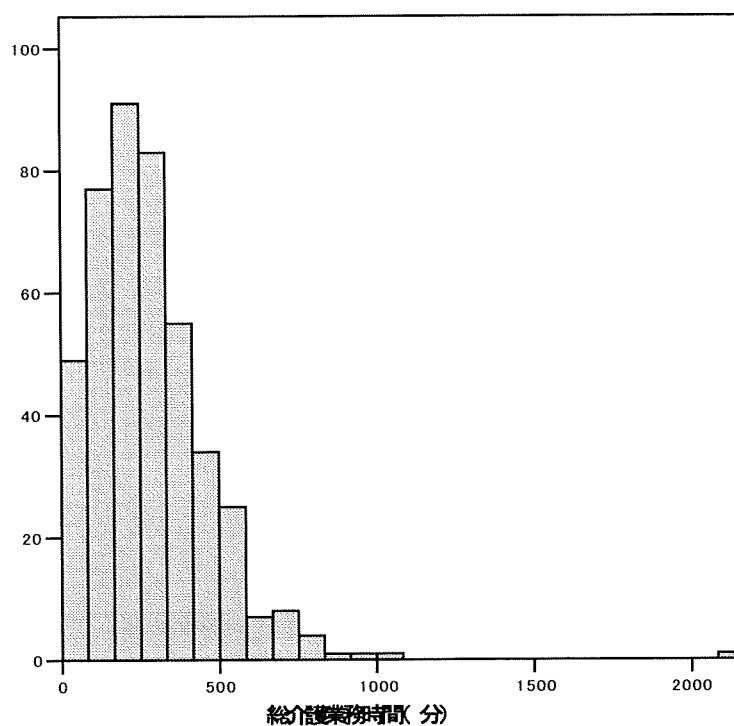


図 4-1 総介護業務提供時間の分布

表 4-3 総提供時間区分別高齢者数

総提供時間 (分)	N	%
0~120分	86	19.7
121~240分	123	28.1
241~360分	103	23.6
361~480分	70	16.0
481~600分	33	7.6
600分以上	22	5.0
合計	437	100

#### 4.介護業務内容別提供時間（大分類別）

提供されている時間の介護内容別の配分を大分類（介護業務分類コード：「療養上の世話」TCC001～TCC178、「与薬・治療・処置」TCC201～TCC271、「機能訓練」TCC301～TCC369、「行事・連絡・報告・会議・研修など」TCC401～TCC428、「在宅ケア関連」TCC501～TCC516）ごとに分析を行った。

この結果、図のように、最も多いのが「療養上の世話」で全体の 73.8%を占めていた。次に「与薬・治療・処置」が 16.5%で、「行事・連絡・報告・会議・研修」などに関しては、8.2%であった。

これを 1人当たりの平均提供時間にすると、「療養上の世話」は、平均値が 207.9分、「行事・連絡・報告・会議・研修など」が 23.1分、「与薬・治療・処置」が 46.6分、「機能訓練」が 4.0分、「在宅ケア関連」が 0.2分となった。

この結果から高齢者に提供されている総介護業務提供時間のうち、「療養上の世話」や「与薬・治療・処置」といった直接的な介護が全体の約 90%を占め、次いで管理的な業務がほぼ 1割を占めることがわかった。

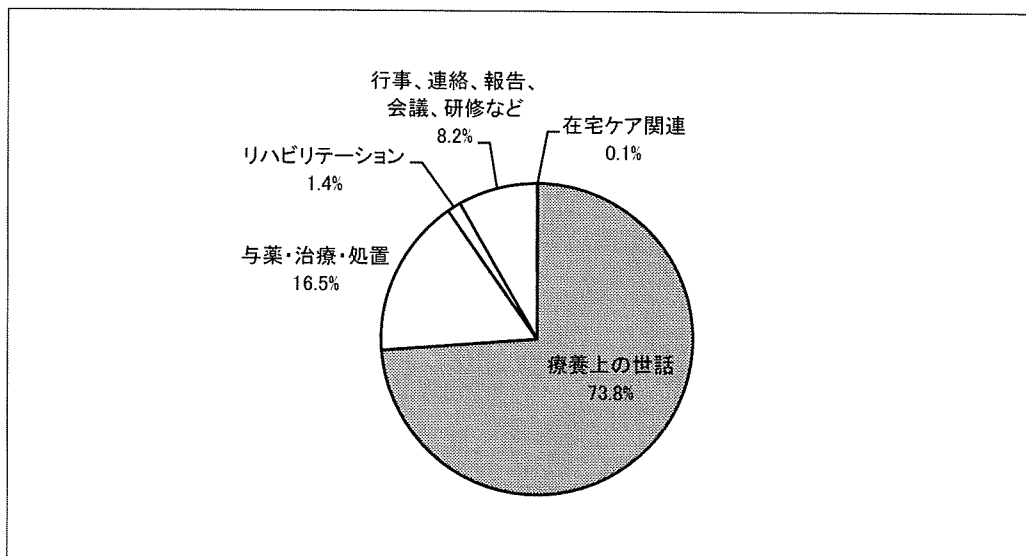


図 4-2 介護者から提供されている総介護業務提供時間（大分類）

表 4-4 介護者から提供されている総介護業務提供時間（大分類） N=437

介護業務分類コード:大分類	平均値	標準偏差	最小値	最大値
療養上の世話	207.9	134.0	0	908.7
与薬・治療・処置	46.6	88.9	0	1639.3
リハビリテーション	4.0	11.4	0	104.7
行事、連絡、報告、会議、研修など	23.1	57.5	0	499.7
在宅ケア関連	0.2	1.4	0	23.0

#### 5.介護業務内容別提供時間（ケア分類別）

すべての介護内容を分類し、もっとも詳細な介護内容としてケア分類別の時間を分析した結果、最も平均時間が長かったのは、「日常会話、声かけ」で48.5分であった。

次いで、「脳・神経系の観察・測定」が19.7分、「ニード、訴えを知る」が16.6分が10分以上提供されていたケアであった。

この他、平均5分以上提供されていたのは、「体位変換全介助」が9.9分、「カーデクス、看護記録等」が8.0分、「(夜間) 巡視、容態観察」7.7分、「点滴・IVHの滴下の調整等」7.5分、「吸引の実施・準備・後始末」が6.8分、「おむつ除去、装着」が5.8分で、9種類だけであった。全体的には、「療養上の世話」に関する介護が多かった。

表 4-5 介護業務内容別時間 平均値降順（上位 20） N=437

TCC	介護業務内容	平均値	標準偏差	最小値	最大値
TCC_141	日常会話、声かけ	48.5	43.4	0	273.7
TCC_136	脳・神経系の観察・測定	19.7	18.4	0	157.0
TCC_142	ニード、訴えを知る	16.6	24.3	0	192.3
TCC_101	体位変換全介助	9.9	18.6	0	188.3
TCC_413	カーデクス、看護記録等	8.0	25.9	0	359.7
TCC_135	(夜間)巡視、容態観察	7.7	13.4	0	177.3
TCC_211	点滴・IVHの滴下の調整等	7.5	11.0	0	71.3
TCC_215	吸引の実施・準備・後始末	6.8	16.0	0	143.0
TCC_076	おむつ除去、装着	5.8	9.5	0	63.0
TCC_152	寝具を整える	4.6	6.2	0	47.3
TCC_264	継続的な評価を伴うモニター監視	4.0	67.0	0	1397.0
TCC_014	全身清拭	3.7	7.3	0	42.7
TCC_106	ギャッチベッドの操作	3.3	5.3	0	40.0
TCC_410	申し送り	3.1	10.8	0	119.0
TCC_077	おむつの点検	2.9	5.5	0	50.0
TCC_053	衣服を整える	2.8	4.7	0	42.0
TCC_202	薬を患者に配布	2.8	3.5	0	19.7
TCC_083	食べ物を食べさせる	2.8	11.5	0	96.7
TCC_080	食事の準備	2.8	3.7	0	22.0
TCC_120	車椅子による移動の介助	2.7	6.8	0	58.0

#### 6.発生したケアにおける介護内容別平均時間

高齢者に提供されている介護業務内容をここでは、発生した場合において、当該介護の平均提供時間が長いケアを降順に示した。

この結果、最も長かったのは、「死後のケア」72.0分であった。ただし、これは1名だけであった。次に多かったのは、「日常会話、声かけ」49.1分、「継続的な評価を伴うモニター監視」38.8分と続いていた。

大分類別に平均値が高い順にみると、療養上の世話では「日常会話、声かけ」が最も長く49.1分、「食べ物を食べさせる」23.1分、「ニード、訴えを知る」20.9分、「脳・神経系の観察・測定」20.0分、「体位変換全介助」18.8分と続いていた。

与薬・治療・処置では、「死後のケア」が最も長く72.0分、「継続的な評価を伴うモニター監視」38.8分、「人工呼吸器使用中の観察」24.8分、「検査のためのカテーテル挿入」24.7分、「吸引の実施・準備・後始末」21.6分と続いていた。

発生した高齢者においては、前述したように長い時間が投下されるような介護内容として、10分以上が投下されていたケアは、「死後のケア」72.0分、「日常会話・声かけ」49.1分、「継続的な評価を伴うモニター監視」38.8分、「人工呼吸器使用中の観察」24.8分、「検

査のためのカテーテル挿入」24.7分、「食べ物を食べさせる」23.1分、「自己注射の指導・管理等」23.0分、「吸引の実施・準備・後始末」21.6分、「ニード、訴えを知る」20.9分、「脳・神経系の観察・測定」20.0分、「体位変換全介助」18.8分、「起坐練習の援助」15.2分、「カーデクス、看護記録等」14.8分、「ケース会議」14.2分、「点滴・IVHの滴下の調整等」13.2分、「申し送り」13.1分、「体操介助」12.4分、「バランス訓練（かなり介助して）」が12.0分、「その他の見守り」11.9分、「在宅酸素吸引器・その他の点検」11.7分、「透析関連のケア」11.5分、「洗身全介助」11.3分、「人工肛門のケアの準備、後始末」11.0分、「耐久性の評価、作業能力評価」11.0分、「予防着、ガウンテクニックつける」11.0分、「おむつ除去、装着」10.2分、「全身清拭」10.1分、「車椅子による移動の介助」10.1分であった。

この他にも、5分以上の投下が示された介護として、「持続吸引等のカテーテルの管理」9.8分、「吸入療法・ネブライザー準備等」、「アイソトープ検査の準備」が9.7分、「膀胱洗浄の準備・実施、後始末」、「ストレッチャーによる移動」、「腎クリアランスの説明・実施」、「手指浴・足浴」9.3分、「歩行の介助」9.2分、「車いす操作：かなり介助して」9.1分、「マッサージ」、「歩行の見守り」9.0分、「(夜間) 巡視、容態観察」8.8分、「発声・発語器官の運動」8.6分、「中心静脈内注射の準備等」8.4分、「褥創、外科創等の処置等、移乗動作訓練」8.0分、「基本動作のデモンストレーション、食間食の食べ物を食べさせる」7.9分、「神経筋促通手技等」7.8分、「その他の問題行動への対応」7.5分、「歩行訓練：口頭指示、見守り」7.4分、「協調性訓練、関節可動域訓練、浴室内の監視」7.3分、「嚥下訓練」7.1分、「浣腸の準備・実施・後始末」7.0分、「エコーの検査の準備・介助後始末」、「院内の検査等への付き添い」、「膀胱瘻留置カテーテルの交換」、「医療、行政担当者との連絡」6.9分、「排尿時の見守り」、「食事中の見守り」、「内視鏡検査の説明等」6.8分、「励まし、慰め、術後の心理的ケア」6.7分、「上肢機能・手指巧緻性の訓練」6.5分、「寝具、リネン交換」、「寝具を整える」6.4分、「抑制帯の脱着、拘束着の鍵の開閉」6.2分、「職員間の連絡」、「歩行訓練：部分介助」、「更衣動作の全介助」6.1分、「点滴、中心静脈栄養の準備等」、「散歩」、「患者自身への教育・心理的支援」、「洗髪全介助」が5.9分、「座位訓練（かなり介助して）」、「おむつの点検」、「筋力増強訓練」5.8分、「経管栄養の実施」、「更衣動作訓練」、「特殊浴槽から車椅子への移乗介助」が5.7分、「家族への教育・心理的支援」、「バランス訓練（部分介助をして）」が5.6分、「手洗い」、「消毒液の交換」、「ギャッチベッドの操作」5.5分、「ポータブルトイレの準備・後始末」、「買物」が5.4分、「寝返り訓練（かなり介助して）」、「持続的静脈内注射の準備等」が5.3分、「口腔清潔（歯みがき等）」5.2分、「歩行訓練」、「立位訓練等の補助」、「食事部分介助」、「酸素吸入の準備・実施・後始末」5.1分、「留置カテーテルの観察等」、「静脈内注射の準備等」、「陰部洗浄、肛門部洗浄(坐浴)」、「診察の介助・準備・後始末」、「爪切り（準備・後始末含む）」が5.0分であった。

表 4-6 発生した介護業務における介護内容別平均時間（上位 20）

TCC	介護業務内容	平均値	標準偏差	最小値	最大値	N
TCC_271	死後のケア	72.0	.	72.0	72.0	1.0
TCC_141	日常会話、声かけ	49.1	43.4	0.3	273.7	432.0
TCC_264	継続的な評価を伴うモニター監視	38.8	207.5	0.3	1397.0	45.0
TCC_223	人工呼吸器使用中の観察	24.8	24.9	0.3	114.0	32.0
TCC_247	検査のためのカテーテル挿入	24.7	27.3	5.3	44.0	2.0
TCC_083	食べ物を食べさせる	23.1	25.1	0.3	96.7	53.0
TCC_506	自己注射の指導・管理等	23.0	.	23.0	23.0	1.0
TCC_215	吸引の実施・準備・後始末	21.6	22.4	0.3	143.0	137.0
TCC_142	ニード、訴えを知る	20.9	25.6	0.3	192.3	347.0
TCC_136	脳・神経系の観察・測定	20.0	18.4	0.7	157.0	431.0
TCC_101	体位変換全介助	18.8	22.1	0.3	188.3	230.0
TCC_122	起坐練習の援助	15.2	32.3	0.3	103.0	10.0
TCC_413	カードクス、看護記録等	14.8	33.6	0.3	359.7	238.0
TCC_412	ケース会議	14.2	14.2	0.3	50.0	55.0
TCC_211	点滴・IVHの滴下の調整等	13.2	11.8	0.3	71.3	248.0
TCC_410	申し送り	13.1	19.2	0.3	119.0	102.0
TCC_128	体操介助	12.4	12.4	1.7	26.0	3.0
TCC_330	バランス訓練：かなり介助して	12.0	.	12.0	12.0	1.0
TCC_177	その他の見守り	11.9	24.0	0.3	168.7	77.0
TCC_505	在宅酸素吸引器その他の点検	11.7	.	11.7	11.7	1.0



## 第5章 介護重視型高齢者群における年齢階層別平均提供時間の特徴

### 1. 介護重視型高齢者群における年齢階層

介護重視型高齢者群の平均年齢は78.1歳であった。

また、年齢階層を①65歳以上70歳未満、②70歳以上75歳未満、③75歳以上80歳未満、④80歳以上84歳未満、⑤85歳以上90歳未満、⑥90歳以上の6群に分類し、総介護提供時間を分析した。

表 5-1 調査対象者の年齢階層別人数

年齢区分	平均値	標準偏差	N
65歳以上～70歳未満	67.1	1.4	58
70歳以上～75歳未満	71.9	1.4	88
75歳以上～80歳未満	77.1	1.4	103
80歳以上～85歳未満	81.8	1.5	100
85歳以上～90歳未満	86.8	1.4	59
90歳以上	92.0	1.6	29
合計	78.1	7.2	437

### 2. 年齢階層別一人あたりに提供された平均時間

年齢階層別に平均提供時間の分析をした結果、最も長かったのは、90歳以上の高齢者群で、平均379.9分であった。次に、85歳以上90歳未満の高齢者群が長く、平均315.7分だった。このように年齢階層が高い後期高齢者ほど、介護提供時間は長くなる傾向が見られた。なお、統計的に有意な差がみられたのは、90歳以上の群と65歳～70歳未満群、70歳以上75歳未満の群との間であった。

表 5-2 各年齢階層別総介護提供時間

年齢区分	平均値	標準偏差	最小値	最大値	N
65歳以上～70歳未満	236.3	176.2	0	716.3	58
70歳以上～75歳未満	236.7	169.3	17.7	759.7	88
75歳以上～80歳未満	294.2	254.8	6.3	2149.3	103
80歳以上～85歳未満	286.9	155.8	20.0	788.0	100
85歳以上～90歳未満	315.7	151.5	19.3	642.0	59
90歳以上	379.9	208.1	62.3	1031.3	29
合計	281.9	194.5	0	2149.3	437

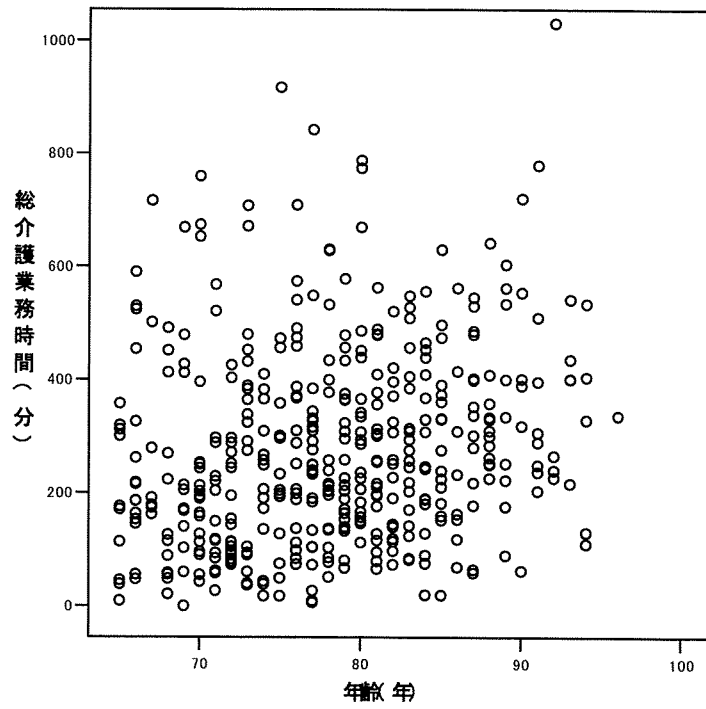


図 5-1 年齢階層別介護提供時間の分布図

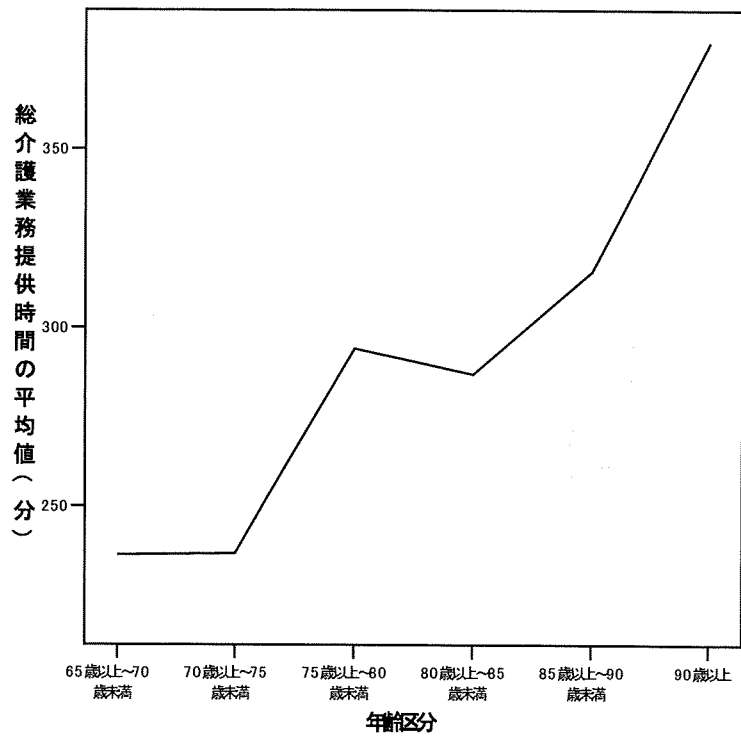


図 5-2 年齢階層別一人あたりに提供された総時間

### 3.年齢階層別一人あたりに提供された介護内容別平均時間

提供された介護内容を5分類し、年齢階層別に介護業務分類別の介護提供時間を算出した。この5分類の時間とは、大分類（介護業務分類コード：「療養上の世話（100番代）」TCC001～TCC178、「与薬・治療・処置（200番代）」TCC201～TCC271、「機能訓練（300番代）」TCC301～TCC369、「行事・連絡・報告・会議・研修など（400番代）」TCC401～TCC428、「在宅ケア関連（500番代）」TCC501～TCC516）別に加算した値をいう。

この結果、年齢階層グループのほとんどにおいて、提供時間の平均値が最も長い介護内容は、100番代と示された日常生活動作の援助等の「療養上の世話」に関する介護であった。

次に、処置や点滴等の「専門的な医療」を示す200番代と続いていた。次いで、介護者同士の申し送りや報告、会議等の介護管理に関する内容である「会議、連絡、報告、研修等」400番代であった。さらに、300番代の「機能訓練」や500番代の退院計画などの調整をする「在宅ケア関連」の介護が提供されていた高齢者は少なかった。

年齢階層別に5分類した介護の内容別の時間を比較すると、「療養上の世話」以外は、年齢階層グループによって、統計的に有意な差はみられなかった。

「療養上の世話」については、「65歳以上～70歳未満」と「85歳以上～90歳未満」との間、「65歳以上～70歳未満」と「90歳以上」との間、「70歳以上～75歳未満」と「85歳以上～90歳未満」との間、「70歳以上～75歳未満」と「90歳以上」との間、「75歳以上～80歳未満」と「90歳以上」との間、「80歳以上～85歳未満」と「90歳以上」との間に統計的に有意な差が示された。

これらの結果からは、年齢が高い群で提供されている介護提供時間が長いのは、「療養上の世話」の時間であることがわかった。この他、治療や看護といった医療的なサービスは、「75-80歳未満」が長く、「リハビリテーション」に関するサービスは、「75歳未満」の高齢者群に長い傾向があることもわかった。

表 5-3 年齢階層別介護内容別平均提供時間

	年齢区分	平均値	標準偏差	最小値	最大値	N
療養上の世話	65歳以上～70歳未満	164.3	120.9	0	474.3	58
	70歳以上～75歳未満	174.2	126.7	16.0	704.0	88
	75歳以上～80歳未満	202.8	126.1	3.3	684.7	103
	80歳以上～85歳未満	213.5	120.0	20.0	544.7	100
	85歳以上～90歳未満	246.6	139.7	18.0	619.0	59
	90歳以上	318.1	164.9	49.7	908.7	29
	合計	207.9	134.0	0	908.7	437
与薬 治療・処置	65歳以上～70歳未満	48.3	51.4	0	223.7	58
	70歳以上～75歳未満	40.5	47.1	0	215.7	88
	75歳以上～80歳未満	60.3	164.0	0	1639.3	103
	80歳以上～85歳未満	41.1	41.4	0	179.7	100
	85歳以上～90歳未満	42.0	37.3	0	134.7	59
	90歳以上	41.6	54.5	0	209.3	29
	合計	46.6	88.9	0	1639.3	437
リハビリテーション	65歳以上～70歳未満	4.4	11.0	0	58.0	58
	70歳以上～75歳未満	4.6	10.8	0	68.0	88
	75歳以上～80歳未満	3.8	10.5	0	48.3	103
	80歳以上～85歳未満	4.1	13.9	0	104.7	100
	85歳以上～90歳未満	3.7	10.9	0	58.7	59
	90歳以上	2.6	9.4	0	47.7	29
	合計	4.0	11.4	0	104.7	437
行事、連絡、報告、 会議、研修など	65歳以上～70歳未満	18.9	47.0	0	258.7	58
	70歳以上～75歳未満	17.3	39.5	0	228.0	88
	75歳以上～80歳未満	27.1	70.3	0	486.3	103
	80歳以上～85歳未満	27.9	70.0	0	499.7	100
	85歳以上～90歳未満	23.3	46.1	0	252.0	59
	90歳以上	17.6	45.9	0	232.0	29
	合計	23.1	57.5	0	499.7	437
在宅ケア関連	65歳以上～70歳未満	0.4	1.2	0	5.7	58
	70歳以上～75歳未満	0.1	0.4	0	3.3	88
	75歳以上～80歳未満	0.2	1.3	0	12.0	103
	80歳以上～85歳未満	0.3	2.3	0	23.0	100
	85歳以上～90歳未満	0.1	0.5	0	3.3	59
	90歳以上	0.0	0.2	0	1.3	29
	合計	0.2	1.4	0	23.0	437

表 5.4 年齢階層別介護内容別提供時間の比較①

			平均値の差	標準誤差	P	
療養上の世話	65歳以上～70歳未満	⇔	70歳以上～75歳未満	-10.0	21.8	1
	65歳以上～70歳未満	⇔	75歳以上～80歳未満	-38.5	21.2	1
	65歳以上～70歳未満	⇔	80歳以上～85歳未満	-49.2	21.3	0.32
	65歳以上～70歳未満	⇔	85歳以上～90歳未満	-82.3	23.8	0.01 *
	65歳以上～70歳未満	⇔	90歳以上	-153.8	29.3	0.00 **
	70歳以上～75歳未満	⇔	75歳以上～80歳未満	-28.6	18.7	1
	70歳以上～75歳未満	⇔	80歳以上～85歳未満	-39.3	18.9	0.57
	70歳以上～75歳未満	⇔	85歳以上～90歳未満	-72.3	21.7	0.01 *
	70歳以上～75歳未満	⇔	90歳以上	-143.8	27.6	0.00 **
	75歳以上～80歳未満	⇔	80歳以上～85歳未満	-10.7	18.1	1
	75歳以上～80歳未満	⇔	85歳以上～90歳未満	-43.8	21.1	0.57
	75歳以上～80歳未満	⇔	90歳以上	-115.3	27.1	0.00 **
	80歳以上～85歳未満	⇔	85歳以上～90歳未満	-33.1	21.2	1
	80歳以上～85歳未満	⇔	90歳以上	-104.6	27.2	0.00 **
	85歳以上～90歳未満	⇔	90歳以上	-71.5	29.2	0.22
	与薬 治療・処置	65歳以上～70歳未満	⇔	70歳以上～75歳未満	7.9	15.1
65歳以上～70歳未満		⇔	75歳以上～80歳未満	-11.9	14.6	1
65歳以上～70歳未満		⇔	80歳以上～85歳未満	7.2	14.7	1
65歳以上～70歳未満		⇔	85歳以上～90歳未満	6.3	16.5	1
65歳以上～70歳未満		⇔	90歳以上	6.8	20.3	1
70歳以上～75歳未満		⇔	75歳以上～80歳未満	-19.8	12.9	1
70歳以上～75歳未満		⇔	80歳以上～85歳未満	-0.6	13.0	1
70歳以上～75歳未満		⇔	85歳以上～90歳未満	-1.6	15.0	1
70歳以上～75歳未満		⇔	90歳以上	-1.1	19.1	1
75歳以上～80歳未満		⇔	80歳以上～85歳未満	19.2	12.5	1
75歳以上～80歳未満		⇔	85歳以上～90歳未満	18.2	14.5	1
75歳以上～80歳未満		⇔	90歳以上	18.7	18.7	1
80歳以上～85歳未満		⇔	85歳以上～90歳未満	-0.9	14.6	1
80歳以上～85歳未満		⇔	90歳以上	-0.5	18.8	1
85歳以上～90歳未満		⇔	90歳以上	0.5	20.2	1
リハビリテーション		65歳以上～70歳未満	⇔	70歳以上～75歳未満	-0.2	1.9
	65歳以上～70歳未満	⇔	75歳以上～80歳未満	0.6	1.9	1
	65歳以上～70歳未満	⇔	80歳以上～85歳未満	0.3	1.9	1
	65歳以上～70歳未満	⇔	85歳以上～90歳未満	0.7	2.1	1
	65歳以上～70歳未満	⇔	90歳以上	1.8	2.6	1
	70歳以上～75歳未満	⇔	75歳以上～80歳未満	0.9	1.7	1
	70歳以上～75歳未満	⇔	80歳以上～85歳未満	0.5	1.7	1
	70歳以上～75歳未満	⇔	85歳以上～90歳未満	0.9	1.9	1
	70歳以上～75歳未満	⇔	90歳以上	2.1	2.5	1
	75歳以上～80歳未満	⇔	80歳以上～85歳未満	-0.4	1.6	1
	75歳以上～80歳未満	⇔	85歳以上～90歳未満	0.0	1.9	1
	75歳以上～80歳未満	⇔	90歳以上	1.2	2.4	1
	80歳以上～85歳未満	⇔	85歳以上～90歳未満	0.4	1.9	1
	80歳以上～85歳未満	⇔	90歳以上	1.6	2.4	1
	85歳以上～90歳未満	⇔	90歳以上	1.1	2.6	1

表 5-5 年齢階層別介護内容別一人あたり提供される提供時間の比較②

		平均値の差	標準誤差	P
行事、連絡、報告、 会議、研修など	65歳以上～70歳未満 ⇔ 70歳以上～75歳未満	1.6	9.8	1
	65歳以上～70歳未満 ⇔ 75歳以上～80歳未満	-8.2	9.5	1
	65歳以上～70歳未満 ⇔ 80歳以上～85歳未満	-9.0	9.5	1
	65歳以上～70歳未満 ⇔ 85歳以上～90歳未満	-4.4	10.7	1
	65歳以上～70歳未満 ⇔ 90歳以上	1.3	13.1	1
	70歳以上～75歳未満 ⇔ 75歳以上～80歳未満	-9.8	8.4	1
	70歳以上～75歳未満 ⇔ 80歳以上～85歳未満	-10.6	8.4	1
	70歳以上～75歳未満 ⇔ 85歳以上～90歳未満	-6.0	9.7	1
	70歳以上～75歳未満 ⇔ 90歳以上	-0.3	12.3	1
	75歳以上～80歳未満 ⇔ 80歳以上～85歳未満	-0.8	8.1	1
	75歳以上～80歳未満 ⇔ 85歳以上～90歳未満	3.8	9.4	1
	75歳以上～80歳未満 ⇔ 90歳以上	9.5	12.1	1
	80歳以上～85歳未満 ⇔ 85歳以上～90歳未満	4.6	9.5	1
	80歳以上～85歳未満 ⇔ 90歳以上	10.3	12.2	1
	85歳以上～90歳未満 ⇔ 90歳以上	5.7	13.1	1
	在宅ケア関連	65歳以上～70歳未満 ⇔ 70歳以上～75歳未満	0.3	0.2
65歳以上～70歳未満 ⇔ 75歳以上～80歳未満		0.2	0.2	1
65歳以上～70歳未満 ⇔ 80歳以上～85歳未満		0.1	0.2	1
65歳以上～70歳未満 ⇔ 85歳以上～90歳未満		0.3	0.3	1
65歳以上～70歳未満 ⇔ 90歳以上		0.3	0.3	1
70歳以上～75歳未満 ⇔ 75歳以上～80歳未満		-0.2	0.2	1
70歳以上～75歳未満 ⇔ 80歳以上～85歳未満		-0.2	0.2	1
70歳以上～75歳未満 ⇔ 85歳以上～90歳未満		0.0	0.2	1
70歳以上～75歳未満 ⇔ 90歳以上		0.0	0.3	1
75歳以上～80歳未満 ⇔ 80歳以上～85歳未満		-0.1	0.2	1
75歳以上～80歳未満 ⇔ 85歳以上～90歳未満		0.1	0.2	1
75歳以上～80歳未満 ⇔ 90歳以上		0.2	0.3	1
80歳以上～85歳未満 ⇔ 85歳以上～90歳未満		0.2	0.2	1
80歳以上～85歳未満 ⇔ 90歳以上		0.2	0.3	1
85歳以上～90歳未満 ⇔ 90歳以上		0.0	0.3	1

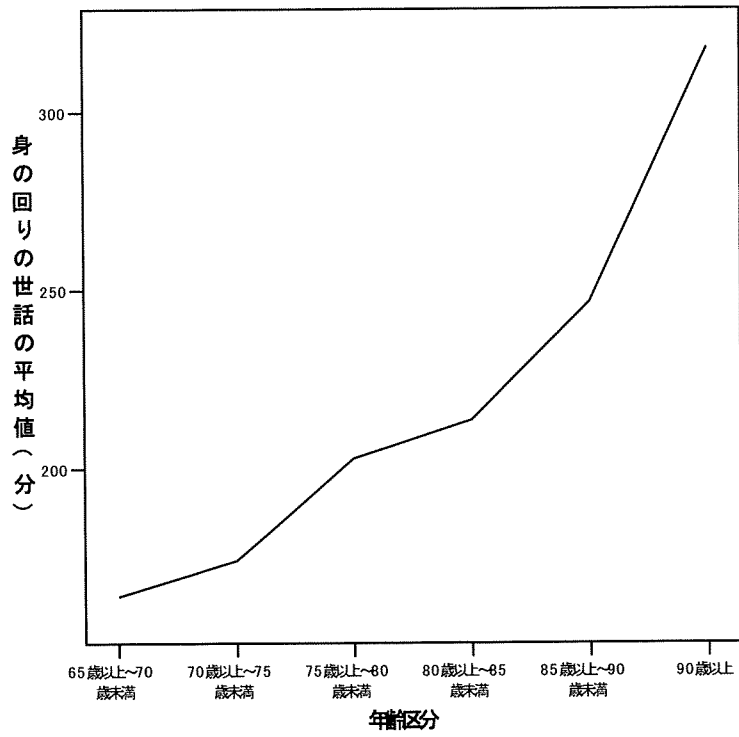


図 5-3 「身の回りの世話」：年齢階層別平均提供時間の分布図

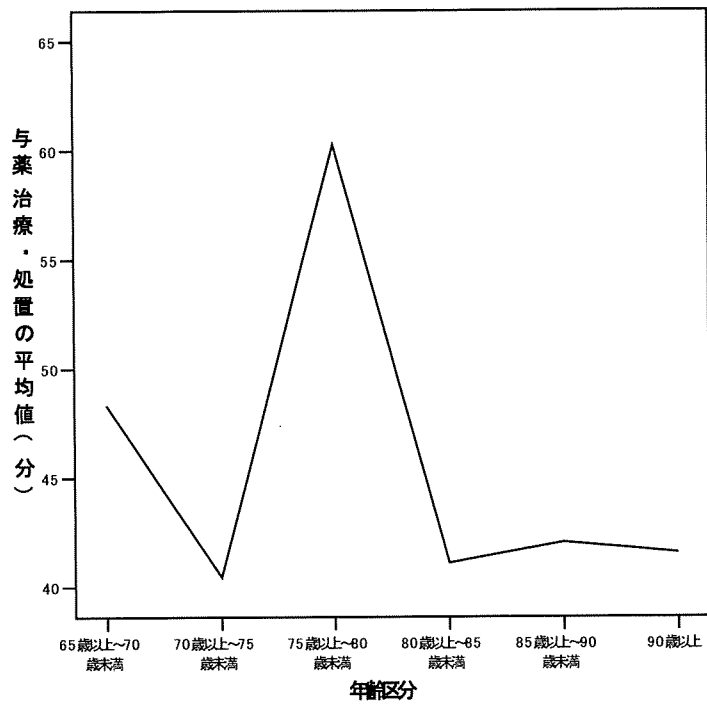


図 5-4 「与薬・治療・処置」：年齢階層別平均提供時間の分布図

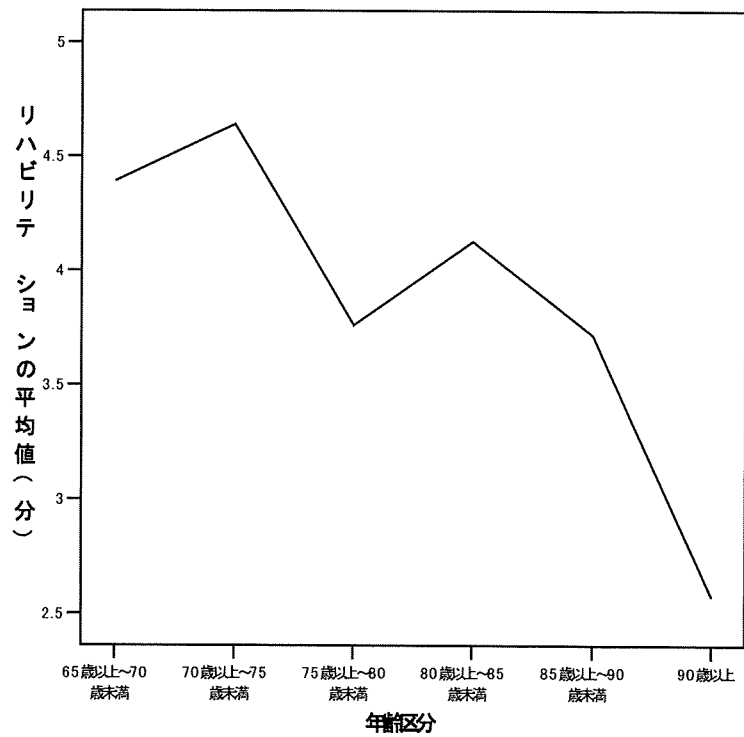


図 5-5 「機能訓練」：年齢階層別平均提供時間の分布図

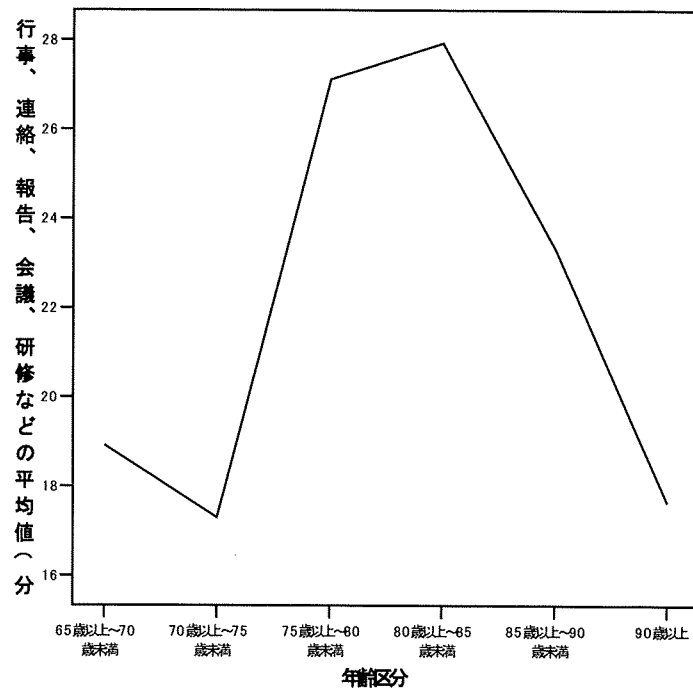


図 5-6 「会議、報告、連絡、研修等」：年齢階層別平均提供時間の分布図



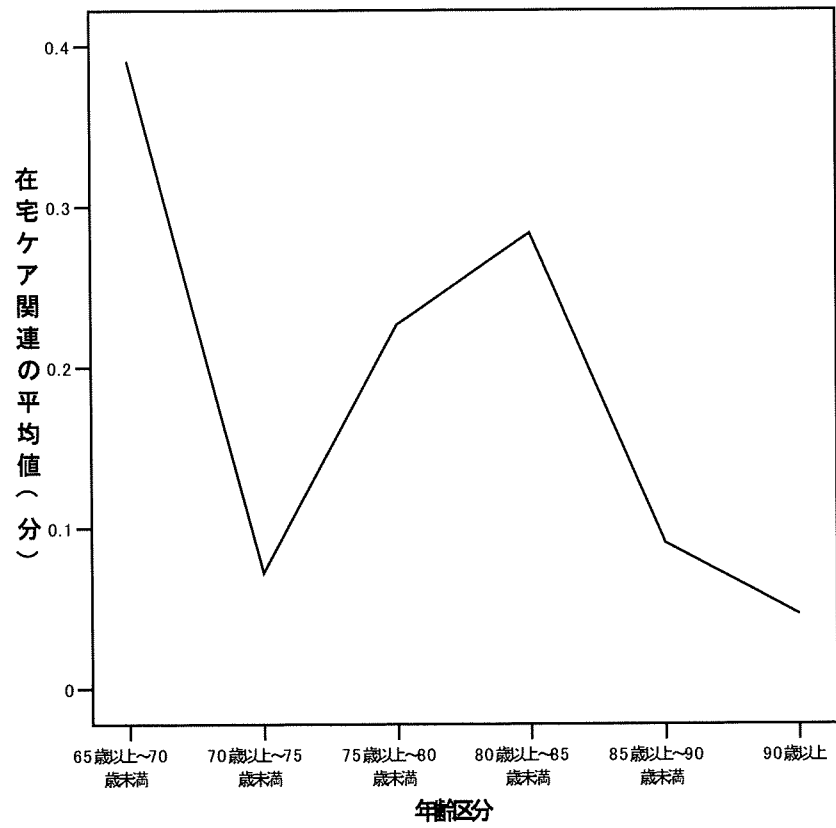


図 5-7 「在宅ケア関連」：年齢階層別平均ケア提供時間の分布図

## 第6章 介護重視型高齢者タイプ別介護内容および提供時間の特徴

### 1. 介護重視型高齢者群における高齢者タイプ別介護業務の種類

高齢者タイプ別に提供された介護業務の種類をとして平均0分以上提供している介護業務の分析を行った。

この結果、高齢者タイプ1に提供している介護業務において、平均0分以上提供していた介護業務の種類は、263種類であった。このうち、介護関連としては、「療養上の世話」に関する業務が154種類(58.6%)、看護関連としては、「与薬・治療・処置」が52種類(19.8%)、リハビリテーションに関する業務としては、「機能訓練」に関する行為が37種類(14.1%)、管理に関する業務が17種類(6.5%)であった。

高齢者タイプ2に提供されていた種類は、277種類であった。このうち、療養上の世話に関する業務が165種類(59.6%)、与薬・治療・処置が49種類(17.7%)、機能訓練に関する行為が42種類(15.2%)、管理に関する業務が18種類(6.5%)であった。

高齢者タイプ3に提供されていた種類は、238種類であった。このうち、介護関連として、「療養上の世話」に関する業務が148種類(62.2%)、看護関連として、「与薬・治療・処置」が46種類(19.3%)、リハビリテーション関連として、「機能訓練に関する行為」が32種類(13.4%)、「管理」に関する業務が11種類(4.6%)であった。

高齢者タイプ4に提供されていた種類は、262種類であった。このうち、「療養上の世話」に関する業務が152種類(58.0%)、「与薬・治療・処置」が58種類(22.1%)、「機能訓練に関する行為」が29種類(11.1%)、「管理」に関する業務が18種類(6.9%)であった。

表 6-1 高齢者タイプ別発生した介護業務の大項目ごとの割合

(単位:種類)

	発生した 介護業務	介護関連 (療養上の世話)	看護関連 (与薬・治療・処置)	リハ関連	管理
高齢者タイプ2	269	165(59.6%)	49(17.7%)	42(15.2%)	17(6.5%)
高齢者タイプ1	258	154(58.6%)	52(19.8%)	37(14.1%)	18(6.5%)
高齢者タイプ4	256	152(58.0%)	58(22.1%)	29(11.1%)	11(4.6%)
高齢者タイプ3	235	148(62.2%)	46(19.3%)	32(13.4%)	18(6.9%)

### 2. 高齢者タイプ別発生率が高いケア

#### (1) 高齢者タイプ1に発生していたケア

高齢者タイプ別に発生した介護業務を分析した結果、高齢者タイプ1では「脳・神経系の観察・測定」が最も高く97.2%、次に、「日常会話、声かけ」が96.5%、「(夜間)巡視、容態観察」93.6%発生しており、これらの3種類だけが9割以上の高齢者に発生していたケアであった。

次いで、5割以上の高齢者に発生していたのが、「ニード、訴えを知る」88.7%、「食事の準備」80.1%、「薬を患者に配布」76.6%、「食事の後始末、配茶後の後始末」63.8%、

「ナースコールの受理応答」51.8%、「採光・防音調整」51.8%と続き、発生した263の業務のうち9種類の介護業務内容だけが高齢者タイプ1の高齢者の50%以上発生したものであった。

4割以上の発生率とすると、「カーデクス、看護記録等」48.9%、「処方箋と処方薬の照合」46.1%、「食事摂取量・水分量測定」45.4%、「歩行の見守り」、「手術前指導のオリエンテーション」、「病室内の掃除」41.8%が追加されていた。

2割以上の発生率の介護内容としては、「患者自身への教育・心理的支援」39.7%、「寝具を整える」38.3%、「点滴・IVHの滴下の調整等」、「更衣動作の一部介助」34.0%、「衣服を整える」30.5%、「清拭の必要物品準備」29.8%、「車椅子による移動の介助」、「励まし、慰め」、「術後の心理的ケア」29.1%、「使用物品の後始末」27.7%、「排尿時の見守り」、「飲み物の用意」27.0%、「車椅子の操作、準備等」、「ベッドから、車椅子へ」、「床頭台を整頓」23.4%、「申し送り」、「点滴、中心静脈栄養の実施、点滴、中心静脈栄養の後始末」22.7%、「口腔清潔の必要物品準備」22.0%、「車椅子から、ベッドへ、部分清拭、起居の援助、衣服等の準備（靴下、靴含む）」21.3%、「温・冷あん法の準備、後始末等」20.6%であった。

高齢者タイプ1では、20%以上の発生率として、38種類の介護業務内容が示されていた。

表 6-2 高齢者タイプ1の高齢者に発生したケア（発生率降順上位20）

TCC	介護業務内容	発生率 (%)	平均値	標準偏差	最小値	最大値	N
TCC_136	脳・神経系の観察・測定	97.2	13.3	10.7	1.0	61.3	137
TCC_141	日常会話、声かけ	96.5	36.0	34.7	0.3	136.0	136
TCC_135	(夜間)巡視、容態観察	93.6	7.1	7.4	0.3	43.7	132
TCC_142	ニード、訴えを知る	88.7	18.8	22.3	0.3	126.3	125
TCC_080	食事の準備	80.1	3.6	3.5	0.3	17.0	113
TCC_202	薬を患者に配布	76.6	3.2	3.2	0.3	15.7	108
TCC_085	食事の後始末、配茶後の後始末	63.8	2.0	2.7	0.3	20.0	90
TCC_143	ナースコールの受理応答	51.8	2.3	2.6	0.3	12.3	73
TCC_162	採光・防音調整	51.8	1.9	2.0	0.3	11.3	73
TCC_413	カーデクス、看護記録等	48.9	10.3	18.2	0.3	124.0	69
TCC_201	処方箋と処方薬の照合	46.1	2.7	4.0	0.3	22.0	65
TCC_086	食事摂取量・水分量測定	45.4	1.8	2.5	0.3	15.0	64
TCC_117	歩行の見守り	41.8	9.2	11.1	0.3	57.3	59
TCC_146	手術前指導のオリエンテーション	41.8	4.1	6.1	0.3	29.0	59
TCC_163	病室内の掃除	41.8	3.2	5.5	0.3	41.7	59
TCC_147	患者自身への教育・心理的支援	39.7	6.8	12.5	0.3	80.0	56
TCC_152	寝具を整える	38.3	3.0	3.3	0.3	16.0	54

TCC_211	点滴・IVHの滴下の調整等	34.0	10.9	10.3	0.3	46.3	48
TCC_051	更衣動作の一部介助	34.0	4.5	5.0	0.3	30.0	48
TCC_053	衣服を整える	30.5	2.2	2.4	0.3	13.0	43

## (2) 高齢者タイプ2に発生していたケア

高齢者タイプ2では、「日常会話、声かけ」は、100 %ですべての高齢者に発生していた。また、「脳・神経系の観察・測定」が98.2 %、「(夜間) 巡視、容態観察」96.3 %と9割以上を示しており、ほとんどの高齢者に発生していた。

さらに、「ニード、訴えを知る」89.0 %、「寝具を整える」82.6 %、「食事の準備」80.7 %、「薬を患者に配布」76.1 %、「衣服を整える」75.2 %、「食事の後始末、配茶後の後始末」75.2 %、「採光・防音調整」72.5 %、「起居の援助」71.6 %は、7割以上の高齢者に発生していた。

続いて、「ギャッチベッドの操作」68.8 %、「おむつ除去、装着」67.0 %、「体位変換一部介助」56.9 %、「ナースコールの受理応答」56.9 %、「点滴・IVHの滴下の調整等」56.0 %、「おむつの点検」56.0 %、「更衣動作の一部介助」55.0 %、「更衣動作の全介助」55.0 %、「陰部洗浄、肛門部洗浄(坐浴)」54.1 %、「カーデクス、看護記録等」53.2 %、「飲み物の用意」50.5 %と22種類のケアが5割以上の発生していた。高齢者タイプ1において5割以上を示したケアは9種類であったことから、高齢者タイプ2のほうが、高齢者に共通して発生していたケアの種類が多いことがわかった。

発生率が40%以上のケアを追加すると、「ベッドから車椅子へ」、「口腔清潔の必要物品準備」、「使用物品の後始末」49.5%、「床頭台を整頓」47.7%、「車椅子からベッドへ」、「点滴」、「中心静脈栄養の後始末」45.9%、「体位変換全介助」、「おむつの後始末」が45.0%、「車椅子による移動の介助」、「処方箋と処方薬の照合」43.1%、「清拭の必要物品準備」42.2%、「車椅子の操作、準備等、病室内の掃除」40.4%が追加される。また、発生率が20%のケアをさらに追加すると、「ベッド柵つけはずし」39.4%、「全身清拭」38.5%、「手術前指導のオリエンテーション」38.5%、「点滴、中心静脈栄養の実施」37.6%、「食事中的見守り」、「オーバーテーブルの準備・後始末」36.7%、「励まし、慰め、術後の心理的ケア」35.8%、「留置カテーテルの観察等」34.9%、「点滴、中心静脈栄養の準備等」33.9%、「食事摂取量・水分量測定」、「洗面の必要物品準備」33.9%、「排尿時の見守り」、「寝具、リネン交換」、「うがい、飲み物摂取介助」、「入れ歯の手入れ」31.2%、「温・冷あん法の準備、後始末等」、「排尿後の後始末」、「患者からのコール等による移動」、「使用物品の後始末」が30.3%と30%以上のケアであった。

「口腔清潔(歯みがき等)」、「おむつ交換の必要物品準備」、「衣服等の準備(靴下、靴含む)」が29.4%、「褥創防止具使用等」、「部分清拭、洗面一部介助」28.4%、「患者自身への教育・心理的支援」、「食事部分介助」27.5%、「排尿動作援助」26.6%、「静脈内注射の準備等」、「物品をとってあげる」24.8%、「褥創、外科創等の処置等」、「便、尿等採取の実施、換気・温度調節」が22.9%、「持続的静脈内注射の準備等」、「洗面全介助」、「寝具、リネン物品準備」が22.0%、「歩行的見守り」、「その他の問題行動への対応」、「尿収器の後始末」、「使用物品の後始末」が21.1%と20%以上のケアとして追加された。